

サイエンスステーション

「科学、数学楽しいよ」

学生が出前授業

中・高生に科学や数学の楽しさを伝えるため大学生・院生が中心となって出前授業などを行う非営利組

織(NPO)のサイエンスステーションが5月28、29の2日間、東京大(東京・文京区)の五月祭でカフェサイエンスステーションを出店した。本学からは内海洋輔さん(自然3年)が参加した。このイベントは軽食を取りながら、大地震が起きる仕組みや星が誕生する過程など先端科学について約30分の講義があり、その後、議論を交わす。講師は全員、同団体に所属する学生と院生だ。



サイエンスカフェで星の誕生について講義する内海さん(東京大で)

内海さんは、金井陽子さん(名古屋大理学研究所修了)と共に、29日午後3時から「星が生まれるまで」

と題して講義を行った。子どもに分かりやすいようスライドを用いて星の誕生の不思議や銀河の広大さについて熱弁を振るった。聴衆は子どもと学生ら20人。質疑応答ではたくさん質問が寄せられ、予定していた時間を超えるほどの盛り上がりだった。講義後、同団体のメンバーが客席を回り、個々に質問を受けたり雑談をした。

と交流の一時を持った。サイエンスステーションは昨年3月、中・高生の科学、数学離れを改善しようと吉井護・東京大教授と天文学体験セミナー「銀河学校」の卒業生が中心となって設立した。中学校、高校への出前授業や、銀河学校の企画・運営を行っている。昨年は、東京や神奈川県など首都圏の高校5校で太陽系外惑星の観測の仕方などを講義した。

吉井教授は「同世代の若者が講義をすれば、質問しやすい雰囲気がつくれ」と話す。

同団体は、活動に参加する大学生、院生を募集している。問い合わせは <http://sciencestation.jp> (内海)まで。